

町政の新たな担い手、嶋野勝町長が目指す「福智の未来」とは――

嶋野町政、始動。

雇用・福祉・教育を改革の柱に、「活力のある福智町」へ――。

――嶋野町政が目指す、町の未来像を教えてください。

私が描く福智町の未来像は「活力のあるまち」です。私もこの町で生まれ育った町民の一人として、誰もが明るく、活気があって、充実した日々を過ごせる町であって欲しいと考えています。互いに支え合い、思い合い、心豊かに生きる、そんな町が私の理想です。具体的には雇用・福祉・教育を改革の柱にあげ、町として前進していきます。そのため

人ひとりの生活と町が深く関わりを持ち、生まれてから死ぬまでのライフステージに合わせて、個々へ手厚く支援を行える保健・福祉制度の拡充が必須です。これから保健・福祉・医療の連携を進め、「生涯福祉」という観点で町民のみなさんの生活をサポートしていきます。例えば、子どもを安心して預けられる施設や身寄りがなくなった人が安心

まず町長として取り組むことは、役場と町民が意識を共有できる信頼関係の構築です。職員の意識改革に着手し、町長として強いリーダーシップと揺るぎない覚悟を発揮して、職員が住民のために迷いなく励み、能力を発揮できる環境づくりを急ぎます。

――雇用に関してどういう展開を図っていきますか

町政のキーワードとして掲げる「活力」とは、この町に

して生涯を果たせるような支援体制の確立を目指します。

――教育に関してどういう展開を図っていきますか

長期的な視点でまちづくりを考えると、教育への働きかけが必要不可欠です。昔から「学校・家庭・地域の三者が一体となって子どもたちを守り、育てよう」と言われていますが、現実には地域が積

暮らす住民一人ひとりが、それぞれ目標を持ち、困ったときには支え合いながら、毎日を前向きに暮らせる力を指します。その活力の源は、自らの持つ能力や資質を発揮できる環境が整っていることが前提であると考えています。しかし、バブル崩壊以降、パートタイムやアルバイトなどの非正規雇用が増え、個の能力を発揮する場が少なくなっています。このような現状に、町として風穴を開けるため

極的に地域の子どもたちと関わる機会が減っているため、学校・家庭・地域のバランスがとれた教育の実現は難しくなっています。私は約30年間、学習塾や教育委員として町の教育と関わってきた中で、学校と教育委員会だけでは教育に限界があると感じています。教育の再生を進める上で、地域やボランティア団体とさらなる連携強化を図り、町をあげて積極的に子どもたちを「見守り、育てる」環境づくりを推進していきます。

――最後に町民のみなさんに対して、一言お願いします

「理想だけでは町は変わらない」というご意見やご指摘をいただくかもしれませんが、「できないからやらない」のではなく、「動き出さなければ、何も始まらない」のです。私たち大人には、次世代の子どもたちに対して、故郷である福智町をよりよい町へと成長させ、引き継いでいく責務があります。そして町民一人ひとりが町への熱い想いを持ち、未来を考えながら今を生き抜く「活力のあるまち」にしていきたくと考えています。これから町民のみなさんには、ぜひお願いをすることもありますが、私をはじめ、職員や町民全員が力を合わせ、福智の明るい未来を築いていきましょう。



↑嶋野町長の初登庁。玄関で花束を受け取り、集まった職員の前で「情熱を持って職務に取り組み、町民から信頼される役場づくりを目指そう」とあいさつ。



↑町長選挙翌日、役場本庁で執り行われた当選証書付与式。林勝馬選挙管理委員長から当選証書が読み上げられ、重責をかみしめつつ謹聴する嶋野町長。

